## 「第9回著作権・著作隣接権論文募集」入賞論文決まる 2位に末宗達行さん、原謙一さん。1位は該当者なし

「第9回著作権・著作隣接権論文募集」で、早稲田大学法学部の末宗達行さんの「著作権信託に関する一考察原著作物と盗作した著作物が同じ事業者に信託されたとき」、および横浜国立大学大学院の原謙一さんの「著作権の質権に関する考察 民法との理論的関係について」が2位に選出されました。また、下表のとおり、会社員の村田孝文さんの論文が3位に、4編が佳作に選ばれました。なお、1位は該当者なしでした(所属は、応募時)。

2013年3月末日の締切までに応募された論文は、個々の審査委員による審査の後、7月に開催した数回にわたる審査委員会で協議され、入賞論文が決定しました。なお、今回の審査は、前回に続き、阿部浩二(岡山大学名誉教授、CRIC 附属著作権研究所所長) 斉藤博(新潟大学名誉教授) 佐野文一郎(日本工芸会会長、元文化庁長官) 玉井哲雄(法政大学理工学部教授) 道垣内正人(早稲田大学法科大学院教授) 紋谷暢男(成蹊大学法科大学院教授)の各先生に行っていただきました。

「著作権・著作隣接権論文募集」は、次世代を担う著作権法制の研究者・実務者の研究を奨励することを目的として、1996(平成8)年度に開始し、2年ごとに実施しております。これまでに50名以上の方が入賞されており、学界、法曹界や著作権関連業界で現在活躍されている著名な方を多数輩出しています。

今回も、学部学生、大学院生、司法修習生、一般社会人など、さまざまな経歴の幅広い年齢の方々から応募があり、論文のテーマも、さまざまな議論がある創作性、条約との関係や、アーカイブ問題を論じたものから、あまり論じられることがない信託、質権、刑法との関係や、OSS ライセンス、戦時加算、北朝鮮の著作権政策について論じたものなどまで、大変バラエティに富んでいました。

なお、入賞論文は、論文集として刊行する予定です。

第2位	末宗 達行 (早稲田大学法学部)	著作権信託に関する一考察 - 原著作物と盗作した著作物が同
おる世	木示 连1] (千個四八子広子叫)	
		じ事業者に信託されたとき
第2位	原 謙一 (横浜国立大学大学院国	著作権の質権に関する考察 - 民法との理論的関係について
	際社会科学研究科博士後期課程)	
第3位	村田 孝文 (会社員)	自社テレビ CM のアーカイブ目的での複製と著作権
佳 作	姉崎 章博 (会社員)	OSS ライセンスとは - 著作権法を権原とした解釈
佳 作	小田 雄一郎 (中央大学大学院法	いわゆる「創作法的選択の幅論」の試論
	務研究科専門職課程)	
佳 作	橘 雄介 (司法修習生)	著作権法違反の罪の正犯性と刑法及び間接侵害における議論と
		の整理
佳 作	野間 小百合 (広島大学大学院社	ベルヌ条約と抵触法
	会科学研究科博士後期課程)	

(敬称略。同位は応募者名の五十音順。所属は応募締切時のもの)

\*この事業は、一般社団法人私的録画補償金管理協会(SARVH)の著作権制度普及を目的とする共通目的基金をもとに実施しています。